

# 愛知県感染症情報

2015年28週 (7月2週 7/6~7/12)

2015年6月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

## 今週の内容

### トピックス

手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎  
病原体検出情報  
定点医療機関コメント  
溶血性レンサ球菌感染症、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、伝染性紅斑等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。  
結核(22)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、レジオネラ症(4)、アメーバ赤痢(1)、ウイルス性肝炎(3)、急性脳炎(1)、梅毒(1)  
2015年6月報  
定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### 手足口病(図1)

28週の定点当たり報告数は2.73、27週314人 28週496人(1.58倍)です。2015年に搬入され検査が終了した16検体のうち、7検体からCV(コクサッキーウイルス)-A6型、CV-A10型・CV-A16型が各3件検出されています。

【参考ページ】豊橋市:手足口病が流行しています(7月13日発表) <http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/28380.htm>  
エンテロウイルス71型による手足口病に注意 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hfmd2013.html>

### ヘルパンギーナ(図2)

28週の定点当たり報告数は4.91、27週636人 28週893人(1.40倍)です。

【参考ページ】ヘルパンギーナ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/herpangina2015.htm>  
疾患別ウイルス検出状況(速報) <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

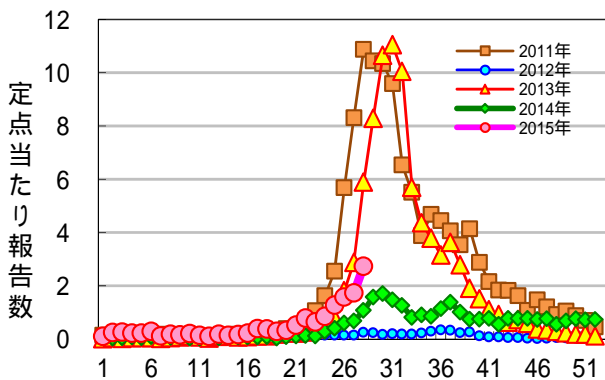


図1 手足口病

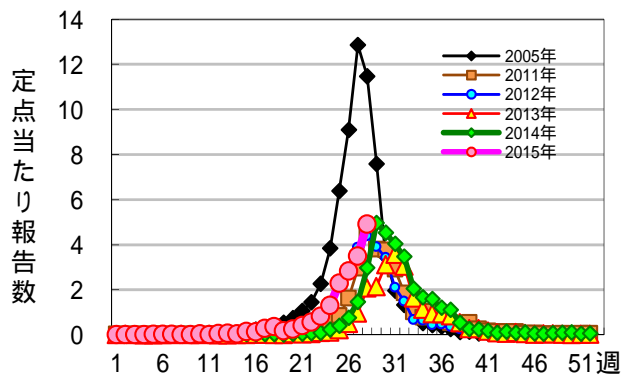


図2 ヘルパンギーナ

### 伝染性紅斑(図3)

伝染性紅斑はヒトパルボウイルスB19の感染による「リンゴ病」と呼ばれることもある疾患です。28週の定点当たり報告数は0.91、27週135人 28週166人(1.23倍)です。

【参考ページ】豊橋市:伝染性紅斑が流行しています(6月15日発表) <http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/24852.htm>

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図4)

28週の定点当たり報告数は3.80と、2000年以降で最高値を示した2008年22週の3.59を上回りました。27週605人 28週692人(1.14倍)です。

【参考ページ】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について [http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a\\_youren.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html)

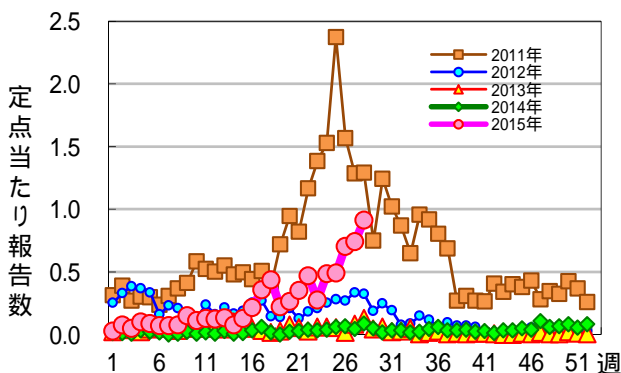


図3 伝染性紅斑

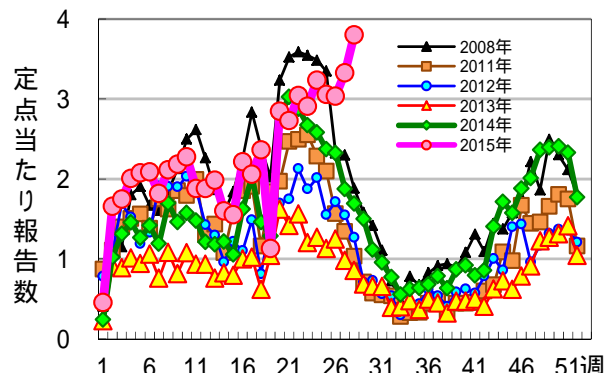


図4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

病原体検出情報 2015年疾患別ウイルス検出速報 (2015年7月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	*インフルエンザ	**麻疹・風疹
患者数	136	29	28	7	16	13	19	192	8(6)
CV-A6	-	7	-	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	3	11	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	3	-	-	-	-	-	-	-
CV-A9	-	-	-	-	-	1	-	-	(1)
E-18	-	-	2	-	-	-	-	-	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	1	136	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	22	-
HMPV	-	-	-	-	-	-	2	-	-
Reo-2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	20	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV G I	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV G II	43	-	-	-	-	-	-	-	-
SV	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	2	-	1	3	-	-	-	-	-
Ad-3	2	-	-	1	-	-	-	1	-
Ad-5	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-41	3	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HSV-1	-	-	-	-	1	-	-	1	-
検査中	40	13	12	2	1	5	3	2	3(0)
陰性	29	3	2	1	14	7	13	31	5(4)

\*インフルエンザは2014/2015シーズンの結果

\*\*麻疹・風疹の( )内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、E: エコーウイルス、FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、FluB: B型インフルエンザウイルス、HMPV: ヒトメタニューモウイルス、HSV-1: 単純ヘルペスウイルス1型、NV: ノロウイルス、Reo-2: レオウイルス2型、Rota A: ロタウイルスA、SV: サポウイルス

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

流行性耳下腺炎あり

【一宮市 後藤小児科医院】

5歳男 カンピロバクター腸炎

【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

ヘルパンギーナが増えてきました。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎増加しています。

伝染性紅斑、手足口病の流行続いています。

溶連菌感染症は減少しています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

ヘルパンギーナ多し。

アデノ感染症、溶連菌散発

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

アデノウイルス、溶連菌、感染性胃腸炎続いています。

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

ヘルパンギーナ流行続いています。(手足口病は少ない。)

伝染性紅斑も目立ちました。

感染性胃腸炎018 8か月女

その他溶連菌感染症等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

ヘルパンギーナ、手足口病増加中です。

溶連菌も相変わらず多し。

【豊明市 こども元気クリニック】

咽頭結膜熱と診断される症例が散見されます。

【長久手市 医療法人スズムラ眼科医院】  
手足口病、ヘルパンギーナ、プール熱が多かった。

【日進市 みやがわクリニック】

夏カゼがとても多いです。

髄膜炎もちらほらいるようです。

インフルエンザ 大人 小人 なし

【春日井市 春日井市民病院】

9歳女 マイコプラズマ気管支炎

溶連菌 201例

来院者のほとんどが溶連菌です。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

あいかわらず感染性胃腸炎が多く、溶連菌感染症もでてきました。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

溶連菌感染症が続いています。

伝染性紅斑も少しづつ。

【小牧市 志水こどもクリニック】

感染性胃腸炎散発

手足口病、溶連菌感染症散発

【南知多町 医療法人大岩医院】

マイコプラズマ感染 21歳女

【半田市 医療法人林医院】

手足口病、伝染性紅斑が増えてきました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

ヘルパンギーナに加え、手足口病が増えました。

溶連菌感染症も多かったです。

アデノウイルス感染症 1名

【東海市 もしもしこどもクリニック】

西三河地区

StrepA(+) 4名

アデノ(+) 6歳男

*E. coli*(O86a) 3歳男

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

1歳女 病原性大腸菌O1(+ )VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

マイコプラズマ肺炎 4歳女 10歳女 5歳男

アデノ(咽) 3歳女

マイコプラズマ肺炎目立ちます。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

溶連菌感染症、手足口病が目立ちます。

水痘が散見されます。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

ヘルパンギーナ増加

【西尾市 山岸クリニック】

病原性大腸菌 0歳男(O6、VT陰性)

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

マイコプラズマ肺炎の子が時にいます。

手足口病が大流行している保育園があります。

5歳男 2名 カンピロバクター腸炎

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

病原性大腸菌O1 2歳女

ヘルパンギーナ急増してきました。手足口病  
とりんご病はまだ少ない。

【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2015年7月15日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun150521.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2015年28週報告数			2015年総計(1～28週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	12	2	2	365	90	93
豊田市	1	1		30	10	8
豊橋市	1	1		38	7	16
岡崎市				21	9	1
一宮	1	1		53	18	13
瀬戸	1			88	12	48
半田	1	1		20	6	2
春日井				32	7	4
豊川				24	8	3
津島	2			56	11	17
西尾				16	6	2
江南	1		1	35	6	16
新城				10	2	5
知多				26	6	10
清須	2		1	18	6	4
衣浦東部				45	16	9
合計	22	6	4	877	220	251

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	27歳	男	7/1	7/4	7/8	O157、VT1(+) VT2(+)
2	名古屋市	27歳	女	6/26	6/29	7/6	O157、VT2(+)
3	衣浦東部	55歳	女	-/-	7/7	7/7	O111、VT1(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	50歳	男	肺炎型	国内
2	名古屋市	46歳	男	肺炎型	国内
3	瀬戸	57歳	男	肺炎型	国内
4	春日井	82歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	清須	53歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内

ウイルス性肝炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	予防接種歴	推定感染経路	推定感染地域
1	豊田市	3歳	女	その他（E Bウイルス、サイトメガロウイルス）	無	不明	国内
2	一宮	68歳	男	B型	無	性的接触	国内
3	一宮	38歳	男	B型	不明	性的接触	国内

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	豊川	70歳	男	その他（リステリア）	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	22歳	男	早期顕症	性的接触	国内

## 6月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔( )は無症状病原体保有者再掲〕

2014～2015年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数	2015年6月			2015年	2014年
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7) 発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (7) 結核	91 (40)	61 (18)	152 (58)	816 (230)	1,867 (531)
三類 (5) コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
細菌性赤痢	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (1)	10 (0)
腸管出血性大腸菌感染症	9 (2)	1 (0)	10 (2)	39 (11)	132 (30)
腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
四類 (43) E型肝炎	0	0	0	6	1
A型肝炎	1	1	2	7	8
コクシジオイデス症	0	0	0	1	0
つつが虫病	0	0	0	0	2
デング熱	0	0	0	5	11
マラリア	0	0	0	0	1
レジオネラ症	9	2	11	37	61
五類 (22) アメーバ赤痢	7	4	11	31	68
ウイルス性肝炎	4	0	4	8	13
内訳 B型	4	0	4	6	12
その他	0	0	0	2	1
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	3	2	5	34	19
急性脳炎	2	0	2	18	18
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	1	5	11
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	5	18
後天性免疫不全症候群	0	10	10	53	98
内訳 無症候性キャリア	0	9	9	34	65
AIDS	0	0	0	17	32
その他	0	1	1	2	1
ジアルジア症	0	0	0	3	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	2	10	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	2
侵襲性肺炎球菌感染症	9	2	11	103	122
水痘(入院例に限る。)*	0	0	0	7	10
梅毒	1	2	3	34	113
内訳 無症候	1	1	2	13	50
早期顕症	0	1	1	16	57
晩期顕症	0	0	0	5	6
播種性クリプトコックス症*	1	0	1	6	2
破傷風	1	1	2	4	4
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1
風しん	1	0	1	12	21
麻しん	0	0	0	0	46
総 計	142	87	229	1,250	2,681

\* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2015年6月			2015年	2014年			
		愛知県	名古屋市	愛知県	累計	総計			
		<名古屋市除く>		全体	愛知県全体	愛知県全体			
				合計	合計				
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	男	25	43	68	399	715	900	1,591
		女	28	14	42	316	316	691	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	13	8	21	117	301	169	643
		女	19	13	32	184	184	474	
	尖圭コンジローマ	男	12	6	18	105	163	220	347
		女	6	3	9	58	58	127	
	淋菌感染症	男	14	15	29	219	244	577	657
		女	1	2	3	25	25	80	
基幹 定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		65	3	68	482	1,090		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		6	5	11	57	59		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0	4		
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	-	0		

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2015年6月			2015年	2014年
	愛知県	名古屋市	愛知県	累計	総計
	<名古屋市除く>		全体	愛知県全体	愛知県全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	0	1

感染症の類型及び定義(感染症法)

2015年5月21日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起しうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症** (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスのよるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

\*\* 2014年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。





